

「樹氷復活県民会議WT（第1回）」が開催されました

令和5年5月26日(金)に、山形県村山総合支庁講堂で「樹氷復活県民会議ワーキングチーム」の第1回会合が開催されました。

「樹氷復活県民会議」は、令和5年3月13日に、世界的にも希少で貴重な自然景観であり、山形県の冬のシンボルである蔵王の樹氷を将来世代に継承できるよう、蔵王連峰の特徴的な植生であるオオシラビソ林を再生し、ひいては県民の宝である樹氷の景観を復活させることを目的として設置されたもので、当署はオブザーバーとして参画しています。

会議には、「技術検討」と「情報発信・次世代継承」の2つのワーキングチーム(WT)が設置されており、今回は2WTが合同で開催され、オオシラビソ林再生に向けたこれまでの取組や、オオシラビソの播種の予定等についてメンバー間での共有が図られました。

山形森林管理署からは、これまでの経緯【別添1】のほか、東北森林管理局が令和3～4年度に、固定翼型の無人飛行機(ドローン)を用いて蔵王地域のオオシラビソ林を上空から撮影した画像を解析して把握した、オオシラビソ枯死等の現況【別添2】を報告しました。

具体的には、

- ・ 地蔵山頂付近の被害は拡大していないこと
 - ・ 山形県域の枯死木の本数は約2万3千本、生立木の本数は約12万6千本であること
 - ・ 網羅的な調査を通じてモニタリングの重点箇所を把握したこと
- を報告しました。

枯死率分布図(山形県側全体)

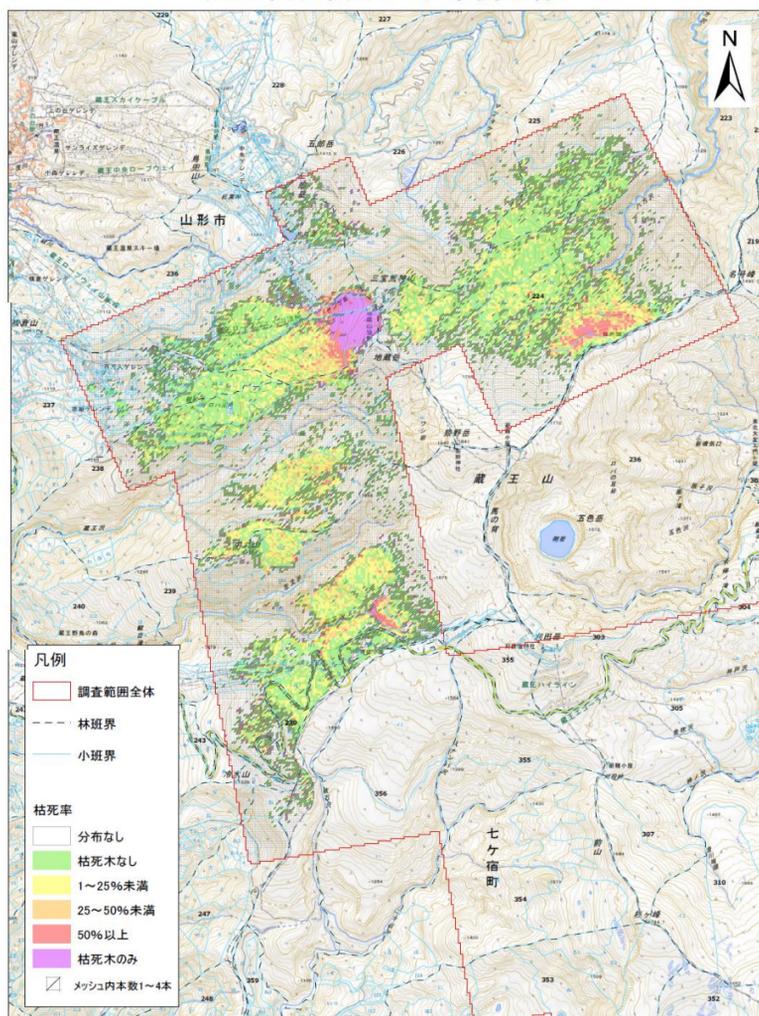


図 4-1 山形県側全体の枯死率分布図

